

【計画】4-3 海面上昇等による塩水遡上の河川への影響調査

【分野：水環境・水資源、対象地域：京都府（大阪府、和歌山県、兵庫県）】

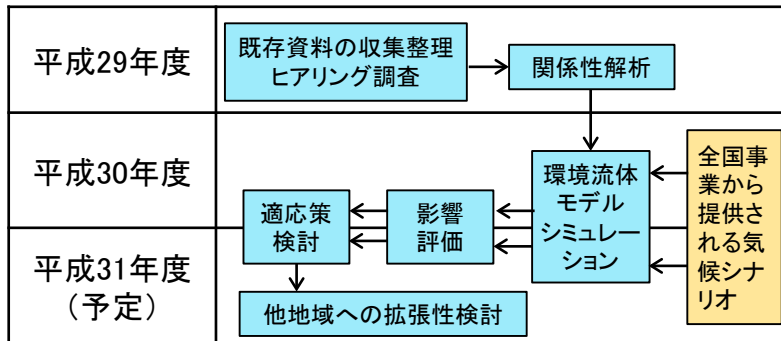
■ 目的

- 気候変動が塩水遡上※に与える影響
気候変動による海水面の上昇や降水量の変化により、塩水の遡上距離が延びる可能性がある。
- 現在までに顕在化している影響
由良川河口から約17 km上流の取水場から、さらに約2.5 km上流の補助取水場まで塩水が遡上する現象が発生している。対策として取水量の調整や防潮幕の設置が必要となっている。
- 調査内容
由良川をモデル河川として、河川水量と塩分及び降水量との関係性について整理し、将来の気候変動時における河川の塩分への影響を評価することにより適応策を検討する。

※「塩水遡上」

淡水より塩分が高く比重が大きい海水が、河口部の川底付近からくさび状に河川をさかのぼる現象。河川水の塩分が高まることで、利水等に影響を及ぼす。

■ 調査計画



地域適応コンソーシアム近畿地域事業

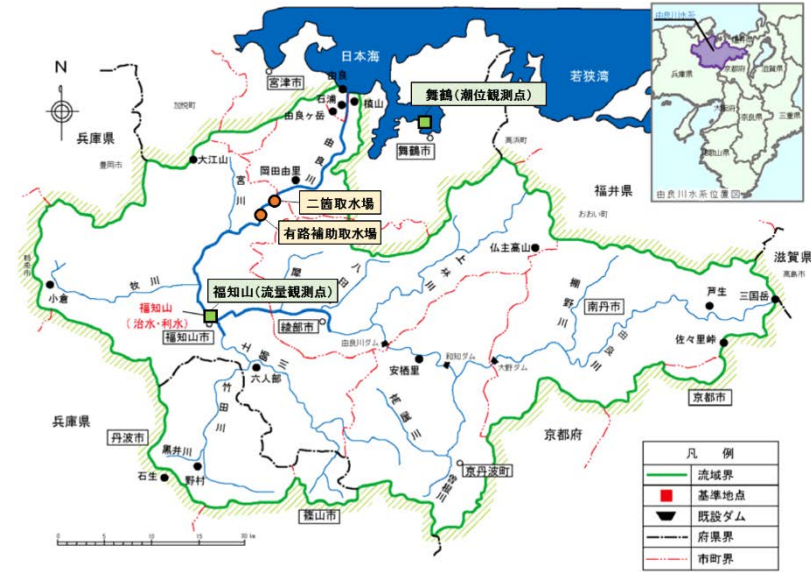


図 由良川における利水施設及び舞鶴市の取水場、流量・潮位観測点の位置

出典：「由良川水系河川整備計画【国管理区間】」（平成25年6月）
（近畿地方整備局）(<http://www.kkr.mlit.go.jp/fukuchiyama/river/honbun.pdf>)
図1.3.1をもとに日本気象協会が作成

■ 実施体制

